2030年のSDGs達成へ向けた市民レベルでの取組みの課題と今後の方向性に関する考察

～松戸市消費生活展でのパネル展示による事例から～

佐　藤　秀　樹*

要　約

国連が2015年9月に持続可能な開発目標（SDGs）を定めてから，4年が経過した（2019年11月末日時点）。国際機関，政府や大企業等ではSDGsを意識したシンポジウムやセミナーが各地で開催され，2030年のSDGs達成へ向けての普及啓発が進んでいるように見える。しかしながら，SDGsのスローガンは「誰ひとり取り残さない」であり，社会的弱者を含む市民を対象とすることを忘れてはいけない。そして，SDGsの目標1～17を達成するためには，地球市民一人ひとりのSDGsの考え方に対する理解と実際の行動へつなげていくことが不可欠である。本研究では，SDGsを市民レベルで促進していくために，2019年10月4日～6日に渡って松戸市で開催された「第46回松戸市消費生活展」にてSDGsパネルを作成・展示し，来場者（市民）と出展団体の担当者を対象とした2つの調査からSDGsに関する理解度の確認，課題の把握や今後の方向性について考察することを目的とした。その結果，松戸市におけるSDGsの具体的な取組みや，つながりの会のメンバーの活動を取入れることで，来場者（市民）のSDGsとのつながりについて一定の理解を得ることができた。また，展示団体の担当者に関する調査では，SDGsの各目標によって内容の把握・行動に違いがあった。以上から，SDGs17の目標全体とのつながりに関する理解の定着や，自分ごととして行動へ移していく学習・研修機会の提供がより一層必要であることが分かった。今後の課題としては，公的な社会教育施設におけるSDGsの重要性を普及啓発していく市民学習や，SDGsを拡大させていくためのリーダーの養成等が必要である。そして，SDGsを市民レベルで取組んでいくための視点としては，地域の「①歴史的背景」，「②生命基盤」，「③学習」の3つの重要性を提示したい。

キーワード：2030年，持続可能な開発目標（SDGs），市民，誰ひとり取り残さない，社会教育

1. 背景と課題

2015年9月，国連が193ヵ国の合意の下，市民団体等の意見を取入れてボトムアップ形式で採択された持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は，2030年までに解決していくべき社会，経済，環境の諸課題に対処していくための世界共通のゴールが掲げられている。SDGsは，17の目標とその下にある169のターゲットから構成され，貧困，農畜林水産業，健康福祉，教育，ジェンダー，水，エネルギー，まちづくり，人権，環境，平和等の多様なテーマで構成されている。SDGsは，世界が直面する様々な課題についてつながりを考慮しながら解決へ導いていこうとする一つのフレームワークである。

開発途上地域と呼ばれる国々では，1日1.90ドル以下で暮らす貧困層が7億3,600万人存在し，経済的な貧困は世界の深刻な重要課題である[(1)]。特に，低所得者層の中でも，その影響を大きく受

2019年11月30日受付
* 江戸川大学　現代社会学科講師　環境教育，環境社会学，国際地域開発学など

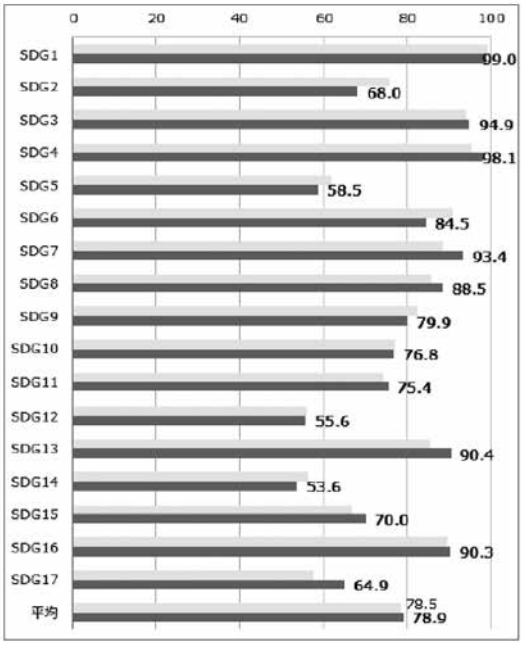

図 1　日本 SDGs 達成度推移（ポイント）

上段は 2018 年，下段は 2019 年の達成度

出所：一般社団法人英語 4 技能・探究学習推進協会
https://esibla.or.jp/info/2019-sdsn-ranking/
2019 年 12 月 25 日アクセス

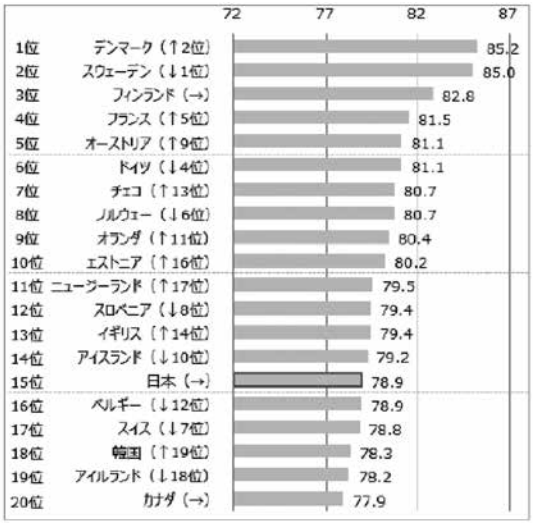

図 2　2019 年 SDGs 達成度上位 20 ヵ国（ポイント）

出所：一般社団法人英語 4 技能・探究学習推進協会
https://esibla.or.jp/info/2019-sdsn-ranking/
2019 年 12 月 25 日アクセス

けやすい女性，子ども，高齢者，障がい者の社会的弱者に対する取組みをより強化していく必要がある。また，「SDGs を活用したビジネスの市場規模（推定）の動向」に関する考察では，SDGs の推定市場は 71 兆円から 800 兆円と各目標によって規模が異なるが，「目標 4：質の高い教育をみんなに」，「目標 6：安全な水とトイレを世界中に」や「目標 16：平和と公正をすべての人に」等の市場規模は小さかった（佐藤，2018）。目標 4 については，「世界で読み書きのできない割合は約 1 割。うち 3 分の 2 は女性（2016 年）」，目標 6 は「世界の 5 人に 2 人は自宅にせっけんと水道を備えた設備を持たず，約 10% は飲料水サービスにアクセスできない（2017 年）」，目標 16 に関しては「人身取引の被害者に女性と女児が占める割合は 70%（2016 年）」となっている（日本経済新聞，2019）。これらは，女性等の社会的弱者にとって重要な解決すべき課題であることから，市民レベルにおいて不可欠な社会開発を中心とした取組みを推し進めていく必要がある。

昨今，日本では，SDGs に関する様々なセミナーや研修会が開催され，新聞，テレビ等にも SDGs のロゴやそのフレームワークを活用した取組みが数多く紹介されるようになった。このような状況の中，2019 年 6 月，SDSN（持続可能な開発ソリューション・ネットワーク）は，日本における SDGs の達成度の推移を発表した（図 1）。この中で，「目標 1：貧困をなくそう（99.0 ポイント）」，「目標 4：質の高い教育をみんなに（98.1 ポイント）」，「目標 3：すべての人に健康と福祉を（94.9 ポイント）」等は達成度が高いのに対し，「目標 14：海の豊かさを守ろう（53.6 ポイント）」，「目標 12：つくる責任つかう責任（55.6 ポイント）」，「目標 5：ジェンダー平等を実現しよう（58.5 ポイント）」は達成度が低くなっている。また，前年から達成度が伸びている目標としては，「目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう（57.3 → 64.9 ポイント）」，「目標 13：気候変動に具体的な対策を（85.2 → 90.4 ポイント）」，「目標 7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに（88.3 → 93.4 ポイント）」等が挙げられる。これらの各目標の達成結果を踏まえ，日本の 2019 年

の SDGs 達成度は 162 カ国中，前年と変わらない世界 15 位となっている（図 2）。

前記の達成状況から，特に，政府，大手企業やある一定の NGO/NPO 等により，SDGs の普及啓発がけん引されていると推測できるが，中小企業や一般市民のレベルでは，SDGs の考えやその活動が十分に浸透しているとは言えない。例えば，2018 年 12 月に行われた「中小企業の SDGs 認知度・実態等調査」[2] では「SDGs については全く知らない」と回答した中小企業は，84.2% であった。また，朝日新聞の一般市民に対する調査では，「SDGs ということばを聞いたことがあるか」という質問に対し，「ある」と答えたのは 19% であった[3]。シンポジウムの開催やマスメディア等による大規模的な SDGs に関する情報を発信するための取組みも確かに必要である。しかし，SDGs の内容を中小企業や市民レベルに落とし込んで地域社会へ浸透させていくための具体的なアプローチ方法等を検討することは，2030 年までに世界の様々な課題を一人ひとりが一丸となって連携・協働して解決していくために極めて重要である。

今回の研究では，2030 年の SDGs 達成へ向けて重要なステイクホルダーの一つと考えられる一般市民を対象として，SDGs の全体像やそれに関わる取組みへの理解度の確認，課題の把握や住民の具体的な行動に落とし込んでいくために必要な視点および今後の方向性について考察する。そして，日本の市民社会レベルにおいて，SDGs を達成していくための示唆を提示する。

2. 調査の目的と方法

本研究では，主として千葉県松戸市の市民を対象とした SDGs の普及啓発活動を通じ，SDGs の理解度の把握，普及啓発していくための課題や地域社会へ浸透させていくための視点，並びに今後の市民レベルにおける SDGs を拡大していくための方向性について考察することを目的とする。

方法は，2019 年 10 月 4 日～6 日[4] に渡り，松戸市民会館で開催された「第 46 回松戸市消費生活展～くらしフェスタ松戸～（主催：松戸市，企画運営：第 46 回松戸市消費生活展実行委員会）」にて，まつど地域活躍塾つながりの会[5] が作成・出展した SDGs パネルの使用による来場者（市民）と出展団体の担当者を対象とした 2 つの調査から考察を行った（写真 1）。なお，今回の消費生活展全体の出展テーマは，「あなたの消費が世界の未来を変える！」であった。

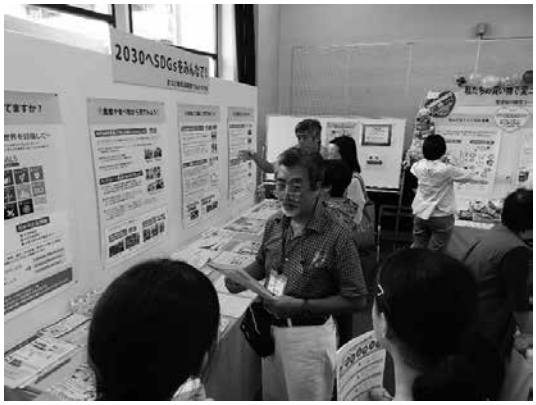

写真 1　SDGs パネル展示と来場者への説明の様子
（2019 年 10 月 6 日佐藤秀樹撮影）

SDGs のパネルの作成手順やその内容，調査方法の進め方については，下記の通りである。

2-1. SDGs パネルの作成手順とその内容

まつど地域活躍塾つながりの会の第 1 期生と第 2 期生の有志のメンバー 4 名により，SDGs パネルの内容づくりを行った。パネルの内容には，できるだけ松戸市に関する情報や，メンバーが直接活動している内容を取上げることで，来場者（市民）や展示団体の関係者に対して実感を持った話ができるよう努めた。メンバーによる協議を進めてアイディア出しを行った結果，「SDGs の全体像」を提示した上で，消費者が SDGs とつながりのある具体的な事例であり，且つ身近に感じられる「農業と食べもの」，「地域と企業」，「生活環境」の各トピックに関するパネルを作成し，普及啓発を進めることにした（図 3）。

①　SDGs の全体像（図 3 左上）：

SDGs の全体像を理解してもらうため，目標 1

図 3　展示した SDGs パネル

左上：SDGs の全体像，右上：農業と食べもの，左下：地域と企業，右下：生活環境
（2019 年 10 月 5 日佐藤秀樹撮影）

～17 までのロゴを置いて世界や日本で抱えている主要な課題を明示し，SDGs の目標を達成していくための必要性が簡潔に分かるように整理した。世界の課題としては，「経済的な貧困問題」，「食料不足」，「異常気象による自然災害の多発」，日本では，「少子高齢社会」，「地方の過疎化」，「外国人居住者の増加」などを挙げ，これらの問題を国内外とのつながりを持って自分ごととして

考えて取組むことにSDGsの意義があることを記述した。そして，私たちの日常生活の中でSDGsとのつながりをみるため，「農業と食べもの」，「地域と企業」，「生活環境」の3つの視点から考えてみることを提示した。

②　農業と食べもの（図3右上）：

市民が毎日身近に感じられる食べることや農業の視点から，地産地消の農産物を購入することが，輸送に伴う二酸化炭素排出削減による地球温暖化の軽減緩和（目標13：気候変動に具体的な対策を）等につながることを解説した。また，コーヒー等のフェアトレードや市内でその商品を販売しているSlow coffee八柱店等を通じ，開発途上国における小規模農家の貧困削減（目標1：貧困をなくそう）等につながることを紹介した。さらに，つながりの会の各メンバーが実際に支援している食・農に関する活動を取上げ，その実践例として松戸の里山保全農業や，バングラデシュの天然蜂蜜採取人支援事業の取組みについて記述した。

③　地域と企業（図3左下）：

地域社会を取巻く市民社会の視点から，松戸市の子ども食堂の実態やその活動について紹介し，貧困削減（目標1：貧困をなくそう）等に関係することを解説した。また，松戸市に工場のある山崎パンの食パンロス削減の取組みから，持続可能な消費と生産のパターンを確保する「目標12：つくる責任使う責任」等との関係性について紹介した。つながりの会のメンバーの取組みでは，松戸市の子ども食堂・学習支援への参加や，バングラデシュにおけるごみ拾い人の労働・生活環境を改善するための取組みを紹介し，SDGsとのつながりについて伝えた。

④　生活環境（図3右下）：

私たちの生活に不可欠な飲水や電気等のエネルギーの価値およびその利用方法についてあらためて考察し，「目標6：安全な水とトイレを世界中に」や「目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」等の重要性に関する内容を解説した。つながりの会のメンバーの具体的な取組みとしては，クリーンな電力会社の切替えについて紹介した。

上記の4つのパネルに加え，補足パネルとして，国ごとの栄養不足状態を明記した「ハンガーマップ」や「今回のパネルを作成したつながりの会の有志メンバーの写真（SDGs17の目標を掲げているもの）」の2枚を作成[(6)]し，展示した。

なお，来場者へのSDGsパネルに関する説明は，つながりの会のメンバーが行い，事前にパネル説明資料[(7)]を作成してメンバー全員がSDGsを円滑に説明できるようにした。

2-2. 私とSDGsとのつながりに関する来場者（市民）への調査

つながりの会のブースを訪れてSDGsの説明を受けた来場者35人の有志に，予め用意した私とSDGsとのつながりに関するシートへの記載とSDGsの目標シールを貼ってもらった。そして，来場者（市民）へのSDGsとのつながりについて分析を行った。具体的には，最初に，「私のSDGsと関連した行動・取組み内容」の記載，それらを「既に実施しているか，もしくはこれから実施する」にチェックを入れてもらい，最後に「自分の取組みに関わるSDGsの目標（1～17）」のシールを貼ってもらった（表2）。

2-3. 出展団体の担当者へのアンケート調査

出展団体の担当者へのアンケート調査は表1の通り，出展18団体の各ブースで説明を行っている数名の担当者を対象とした。ランダムに30枚のアンケート用紙を配布し，20枚を回収することができた。アンケートの内容は，展示パネルに沿って，「SDGsの全体像」，「農業と食べもの」，「地域と企業」，「生活環境」に関する内容やその理解度を把握する質問とした（表3-1, 3-2, 4, 5, 6）。また，その他の質問として，自分の地域課題に関する項目を設けることで（表7），その関心事からSDGsとのつながりについて考察した。

なお，各出展団体の担当者にはSDGsのパネル

表 1　内容と出展団体[8]

No.	内容	出展団体
1	ゲームにまつわるトラブル	松戸市立松戸高等学校生物部・ホームプロジェクト部
2	ホタルの保護で地域環境を考える	千葉県立小金高等学校生物部
3	プラスチックごみをへらそう！	松戸市消費者の会
4	裁判と生活とのかかわり	松戸検察審査協会
5	廃食用油回収して BDF へ	NPO 法人松戸エコマネー「アウル」の会
6	2030 へ SDGs をみんなで！	まつど地域活躍塾つながりの会
7	食の安全は，心の安心に繋がる	食の安全安心を考える市民の会
8	私たちの買い物で変えられる未来	生活協同組合コープみらい千葉県本部
9	耐震は重要，壊れたら大変だ	NPO 法人すまいの応援団
10	災害に対する家庭での備え	RKU ファイヤーファイターズ
11	スリムな暮らし，ごみダイエット	生活クラブ生活協同組合・松戸プリムラの会
12	住みなれた場所で暮らしの安心を	認定 NPO 法人東葛市民後見人の会松戸支部
13	成年年齢が引き下がります	消費生活モニター
14	地球にも人にもやさしい暮らし方	NPO 法人せっけんの街
15	架空請求はがきに注意！	消費生活センター
16	緑豊かなまちづくり	公益財団法人　松戸みどり花の基金
17	高効率で環境性に優れたガス機器	京葉ガス株式会社
18	災害・防災・避難について	千葉県西部防災センター

※ No. 16, 17, 18 は協賛団体。

を見てもらった上でアンケートに回答してもらうこと，そして，団体としてではなく個人として回答してもらうよう要請した。

3. 結果・考察

3-1. 私と SDGs とのつながりに関するシートへの記載結果と考察

表 2 は，私と SDGs とのつながりの結果について整理したものである。「私の SDGs と関連した行動・取組み内容」に関してチェックを入れたのは，「既に実施しているか（28 人），もしくはこれから実施する（2 人）」の計 30 人，無回答 5 人であった。

「私の行動・取組み」では，多様な意見がだされた。内容としては，ゴミの分別，生ごみは乾燥させて捨てる等の廃棄物に関するテーマや，出かける時のマイボトルの持参に関する取組み，マイバックの持参，レジ袋を断るや冷暖房の空調温度に気をつける等が多かった。今回の回答者は，自分の身近な生活環境の中から，SDGs の各目標に関わるテーマを取組んでいるもしくは計画していることが特徴であった。

「自分と SDGs とのつながりに関するロゴシール」については，「目標 13：気候変動に具体的な対策を」，「目標 14：海の豊かさを守ろう」，「目標 12：つくる責任つかう責任」，「目標 7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や「目標 15：陸の豊かさも守ろう」のシールを選択した人が多かった。特に，「目標 13：気候変動に具体的な対策を」のシールを貼った人が多かった。その理由としては，「私の行動・取組み内容」での記

表 2　私と SDGs とのつながりに関するシートのとりまとめ結果

No.	わたしの行動・取組み	チェック	SDGｓとのつながり（ロゴシールを貼る）
1	ホタルの保護、放流をしている。	している ■ これから □	6 13 15
2	水筒を持ち歩いている。	している ■ これから □	6 12 13 14
3	牛乳パックを回収に出している。	している ■ これから □	12 13 15
4	一滴に水も一粒のコメ。一尾のしらす干し一粒のイクラを大切にしている。 一滴の醤油も大事に食している。	している ■ これから □	12 13 14
5	水筒を持ち歩く。	している ■ これから □	12 14 15
6	ゴミの分別。	している ■ これから □	11 12 13 15
7	エシカル商品を買う。	している □ これから ■	1 2 3 4 8 10 12
8	水筒を持ち歩く。	している ■ これから □	12 14 15
9	ゴミの分別。	している ■ これから □	11 12 13 15
10	エシカル商品を買う。	している □ これから ■	1 2 3 4 8 10 12
11	生ごみは乾かしてから捨てている。	している ■ これから □	15
12	自動車じゃなくて電車できた。	している ■ これから □	7 13
13	イカヤキを食べた。	している □ これから □	14
14	パパとママは仲よし。	している ■ これから □	5
15	水道の水を飲む。	している ■ これから □	6 7 13
16	発泡スチロールトレイは近くのスーパーの箱に入れている。	している ■ これから □	14
17	ペットボトルを出すときはきちんとつぶして回収に出している。	している ■ これから	14
18	以前，食品ゴミは水切りが難しいのでポリ袋を使っていたが、包装紙で包んで市指定の燃えるゴミに出している。	している ■ これから □	14
19	直売所の野菜を買っている。	している ■ これから □	7 11
20	マイバッグ持参。	している □ これから □	14
21	職場で太陽光発電。	している □ これから □	7 13
22	極力レジ袋はもらわない。	している □ これから □	12 13 14
23	エアコンを過度に使用しない。	している ■ これから □	11 13 15
24	地元のものを買う。	している □ これから □	7 8 9 12 13
25	食品を残さない。	している ■ これから □	1 2 12
26	残業を減らす。	している ■ これから □	7 8 9 10 16
27	休みをとる。	している ■ これから □	3 7 9 10 16
28	マイバッグ。	している ■ これから □	14
29	ゴミの分別。	している ■ これから □	14
30	家にいない時，クーラーを消す。	している ■ これから □	7 13
31	買い物の時，マイバッグをもっていく。	している ■ これから □	12 13 14
32	買い物の時，袋をもらわない。	している ■ これから □	7 12 13 14
33	歩いてきた。	している ■ これから □	7 13
34	出かけるときはペットボトルを買わないで，水筒を持っていく。	している ■ これから □	11 13 14
35	出かけるときは，必ず水筒を持っていく。	している ■ これから □	11 13 14

出所：シートへの記載結果より筆者作成。

載はなかったが，最近の台風や豪雨の被害の多発による異常気象と気候変動との関わりについて意識が高いことが一つ挙げられると考えられた。また，「目標14：海の豊かさを守ろう」が多かったのは，少し予想外の結果であった。今回の回答者は，「私の行動・取組み」の内容でゴミ，廃水や資源等をテーマとした人が多かった。そのため，消費者の多くがゴミのたどり着く末端の海を考慮したのか，もしくは，最近，話題となっている海洋プラスチック問題の課題が影響していること等が，その理由として考えられた。図1にもあるように，目標14は日本におけるSDGsの各目標の中でも達成度が低いため（53.6ポイント），取組むべき重要な目標の一つであると言える。また，回答者が目標7，12や15を選んだのは，今回のSDGsパネルで紹介した内容が，自分の行動・取組みや今後の計画と一致していた部分もあると考えられことから，これらを選択した人がより多かったと分析できる。

以上から，来場者（市民）の私とSDGsとのつながりに関する調査では，私たちの日常生活と身近にあるテーマの気候，ゴミ，食品ロス，エネルギーや自然等に関する分野からSDGsとのつながりを考え，具体的な行動へ落とし込んでいくことが一つのアプローチ方法であると考えられる。単なるSDGsの目標1～17の概念の解説だけでは，内容が少し抽象的で大きなテーマであるため，市民レベルにおいては具体的なイメージを持つことが難しい。そのため，身近で具体的な取組みや行動からSDGsが自分たちの地域や世界とつながっていることを捉えていくことが，市民へのSDGsの普及啓発には極めて重要な進め方であると考えられた。そういった意味でも，今回，SDGsのパネルには，その概念の全体像だけでなく，松戸市でSDGsの各目標と関連のある取組みや，つながりの会のメンバーの活動を紹介することで，来場者がSDGsの考え方についてある一定の理解を得ることができたと考えられる。今後の課題としては，「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」や「目標3：すべての人に健康と福祉を」等，図1に示したように日本として達成されていないジェンダー平等や，これからの超高齢社会の課題を市民の生活との関わりの中で具体的に落とし込むことで，SDGs17の目標全体とのつながりを伝えるための工夫が求められる。

3-2. 出展団体の担当者へのアンケート調査結果と考察

(1) SDGsの全体像

表3-1は，「SDGsという言葉を聞いたことがあるかどうか」についての質問に対する回答である。結果は，14人が「はい」と答えたが，5人が「いいえ」，1人が無回答であった。出展団体の担当者の多くは，社会，経済や環境に関するトピックに興味・関心が極めて高いと考えていた。そのため，SDGsという言葉は全員が知っているものと推測していたことから，予測とは少し異なる結果となった。今回の出展団体はSDGsの目標を達成するリーダー核となる団体の担当者であることから，より一層SDGsの意義やその取組みを意識する必要がある。

表3-2は，SDGsの目標1～17の中で，関心のある上位の目標3つを挙げてもらった際の回答結果である。本調査項目では，16人からの記載があった。上位1位で一番多く選択した目標は，「目標1：貧困をなくそう」の4人であった。その理由としては，貧困を克服することが人間の豊かさにつながるという記述が挙がっていたことから，重要性の高い目標であると言える。また，上位2位では，「目標6：安全な水とトイレを世界中に」を選んだのが3人と一番多かった。その理由としては，人間にとって水は不可欠なものであり，改善していくために困難を伴う課題であるとの意見があった。本目標についても，ニーズが高く向上させていくべき課題の一つであると考えら

表3-1　SDGsについて

1. あなたは，これまでSDGs（Sustainable Development Goals, 持続可能な開発）という言葉を聞いたことがありましたか？
はい：14人　　いいえ：5人　　無回答：1人

出所：アンケート結果より筆者作成。

表 3-2　SDGs で関心のある上位 3 つの目標とその理由

2. パネルにある通り,SDGsの目標は17あります。ご自身が関心のある上位3つの目標と,その理由を書いて下さい。

	上位1位	上位2位	上位3位
目標:	目標1-貧困をなくそう。	目標1-貧困をなくそう。	目標3-全ての人に健康と福祉を。
理由:	人間助け合いが必要。	記載なし。	記載なし。
目標:	目標1-貧困をなくそう。	目標3-全ての人に健康と福祉を。	目標4-質の高い教育をみんなに。
理由:	貧困をなくすことが,心の豊かさにもつながる。	人は幸せにならないと環境等を守ることにも目が向かない。	ボトムアップできるのは教育の子どもの真っすぐな心と力であるため。
目標:	目標1-貧困をなくそう。	目標4-質の高い教育をみんなに。	目標4-質の高い教育をみんなに。
理由:	食べ物がなくて死んでしまう子どもたちがいるから。	豊かな教育の必要性。	世界では勉強をしたくてもお金がなくて,教育を受けられない人がたくさんいるため。
目標:	目標1-貧困をなくそう。	目標6-安全な水とトイレを世界中に。	目標7-エネルギーをみんなにそしてクリーンに。
理由:	以前,ユニセフの活動をしたことがあり,その際,貧困の現実を見たため。	汚れた水を飲むしかなく,命を落とす子どもがいると聞いたことがある。	クリーンエネルギーの必要性。
目標:	目標3-全ての人に健康と福祉を。	目標6-安全な水とトイレを世界中に。	目標7-エネルギーをみんなにそしてクリーンに。
理由:	みんなが健康でないと,幸せになれない。	水は生きていくために欠かせないものだから。	原発は地球を汚す。自分の所にあるもので電気をつくる必要がある。
目標:	目標3-全ての人に健康と福祉を。	目標6-安全な水とトイレを世界中に。	目標10-人や国の不平等をなくす。
理由:	健康な精神を育むために,健康でありたい。	環境や技術によっては,難しいところがあると思ったから。	平等にする必要があるため。
目標:	目標4-質の高い教育をみんなに。	目標7-エネルギーをみんなにそしてクリーンに。	目標10-人や国の不平等をなくす。
理由:	学生として教育の広まりは,輪の広まりにもなると思う。	限りのある資源なので,自分たちでできる太陽光をもっと取り入れたい。	記載なし。
目標:	目標4-質の高い教育をみんなに。	目標10-人や国の不平等をなくす。	目標11-住み続けられるまちづくりを。
理由:	自分にとって,教育はとても身近なものだから。	あらゆる差別意識を持たない。	近隣に目を向けて助け合う。
目標:	目標5-ジェンダー平等を実現しよう。	目標10-人や国の不平等をなくす。	目標12-つくる責任,つかう責任。
理由:	性的少数者(LGBT)は,最も身近だから。	皆仲良くする必要がある。	生きるとは責任を持つこと。
目標:	目標5-ジェンダー平等を実現しよう。	目標11-住み続けられるまちづくりを。	目標13-気候変動に具体的な対策を。
理由:	性的少数者(LGBT)の人が増えており,柔軟に対応する必要がある。	これからも次の世代に安心して暮らしてほしい。	未来の子どもたちのために考えるべきこと。
目標:	目標8-働きがいも経済成長も。	目標13-気候変動に具体的な対策を。	目標14-海の豊かさを守ろう。
理由:	記載なし。	記載なし。	海はすべての源。
目標:	目標10-人や国の不平等をなくす。	目標14-海の豊かさを守ろう。	目標14-海の豊かさを守ろう。
理由:	人や国を平等にするという問題を具体的にどのように解決するのか気になったから。	意識すれば,守れるため。	海洋汚染により,魚が死んだりその魚を食べて害がでるから。
目標:	目標12-つくる責任,つかう責任。	目標15-陸の豊かさも守ろう。	目標16-平和と公正を全ての人に。
理由:	食品ロスの問題。	一部地域の砂漠化等に興味がある。	紛争問題に興味があるから。
目標:	目標12-つくる責任,つかう責任。	目標15-陸の豊かさも守ろう。	目標16-平和と公正を全ての人に。
理由:	不安がなく,安全に物を購入することができる。	森林の破壊を止めないと,生物が減少していまうため。	一番実現するのが難しそうだと思ったから。
目標:	目標13-気候変動に具体的な対策を。		
理由:	気候変動は全ての環境問題の根幹に関わっているから。早急に具体的な対応策が必要である。		
目標:	目標14-海の豊かさを守ろう。		
理由:	プラスチック,化学物質や放射能で汚したら,元の状態に戻すのは難しいため。		

出所: アンケート結果より筆者作成。

れる。上位 3 位では,「目標 4：質の高い教育をみんなに」,「目標 7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」,「目標 10：人や国の不平等をなくす」,「目標 14：海の豊かさを守ろう」,「目標 16：平和と公正を全ての人に」がそれぞれ 2 人ずつと，回答が分散した。理由にもあるように，教育，エネルギー，環境，平等や平和等，現代社会の抱える差し迫った社会的課題解決へ向け，将来世代を考えた具体的行動をとっていくことの重要性に関する意識の高さを把握することができた。

以上から，今回の出展団体の担当者に対する調査では，SDGs の理解度はある一定程得られたが，SDGs が十分に浸透・定着しているとはまだ言えない。その一方で，回答者の SDGs の 1～17 の目標における関心の高いテーマは，貧困，水や教育，エネルギー，環境，平等，平和等を中心とした課題解決が全般的に重要との結果がでた。これは，つながりの会が作成したパネルの内容による影響も少し関与しているかもしれないが，市民が身近に感じる重要な課題であることは確かである。一つひとつの課題が相互に関連していることを意識し，地域の課題，そして世界とのつながりを考えて私たちのライフスタイルを見直すため，SDGs のリーダー核を担う出展団体の担当者は

表 4　農業と食べもの

1. 地産地消（自分の地域でとれた農産物を積極的に購入すること）を意識して食品を購入していますか？「いいえ」と回答した人は，その理由もお答えください。	
はい：13 人　　いいえ：7 人	
購入しない理由等：	・松戸は道の駅が少なく，地元の野菜が欲しい。 ・買う機会が少ないから。 ・近くの店に地域でとれた野菜を取り扱っている場所がないため。 ・金額を重視している。 ・近くで農薬をかけているのを見ると，購入する時に考えてしまう。 ・○○産の方が美味しいというイメージがある。
2. フェアトレード（お店で，開発途上国の零細農家が生産したコーヒー・紅茶等を購入して，彼らの暮らしの改善に寄与すること）による商品を意識して購入していますか？「いいえ」と回答した人は，その理由もお答えください。	
はい：7 人　　いいえ：13 人	
購入しない理由等：	・手にいれにくい。値段がやや高い。 ・金額を重視している。 ・本当に支援できているのかが疑問。 ・どれがフェアトレードされた商品かわからない。 ・余り知らない。 ・わかれば購入したい。 ・スーパー等にあまり売られていない。 ・自分が買いたいものがフェアトレード商品でないため。 ・購入できる店が近くにない。 ・日常該当する食べものが見当たらない。 ・安全かどうか不安である。 ・チョコレート等を高値で販売し，開発途上国にお金が回ると良い。

出所：アンケート結果より筆者作成。

SDGs の 17 の目標のつながりを十分に考慮して自分ごととして行動する必要がある。

⑵　農業と食べもの

表 4 は，SDGs パネルの「農業と食べもの」の内容に関する調査結果である。「地産地消を意識して食べものを購入しているか」という質問に対して，13 人が「はい」，7 人が「いいえ」と回答した。いいえと答えた人で「購入しない理由」として挙げられたのは，地元の野菜を取扱っているお店が少ないことや，分からないと回答した記述が多かった。

また，「フェアトレード商品を購入しているか」という質問では，「はい」と答えたのが 7 人で，13 人は「いいえ」と回答したことから，フェアトレード商品購入の認識は，低かった。購入しない理由としては，値段の高さ，フェアトレード商品への疑念や販売店が分からない等が挙げられた。我々消費者がフェアトレード商品を購入することの意義を広く広報し，地域社会がそれらを支えていくための仕組みをつくっていく必要がある。

「目標 13：気候変動に具体的な対策を」や「目標 1：貧困をなくそう」等の SDGs の目標と，我々の食・農とのつながりについて，正しい情報を収集して各自が学習・認識を深めることが求められる。

表 5　地域と企業

1. 子ども食堂について知っていましたか？	
はい：18 人　いいえ：2 人	
2. 全国的に子ども食堂の数が増加していますが，なぜ増えていると思いますか？あなたの考えを書いて下さい。	
意見：	・虐待や貧困への意識が高まったから。 ・貧困，共働き世代の増加。 ・貧困。 ・経済的に厳しい人たちが増えたから。 ・身寄りのない子や貧困層が増えたから。 ・共働き，片親等，家庭環境が子どもにとって豊かでない。 ・共働きの家庭が増加しているため。 ・親の関心が子どもに向かなくなってきているから。 ・ニーズがあるため。 ・必要としている人が多いから。 ・先進国の中で名誉ある No.1 の日本であること。幸せに暮らせば家庭環境の下でのニーズが多いことのあらわれ。 ・ママ友。 ・宣伝がされるようになったから。 ・子どもが無償で勉強を教えてくれるから。
3. 一般的に，商品を購入する際，何を意識して買いますか？下記よりお選びください（複数選択回答）[9]	
①値段が安いこと：11 人 ②量が多いこと：5 人 ③おいしそうにみえること：5 人 ④環境にやさしい商品：8 人 ⑤どこの会社・人がつくっているか：6 人 ⑥添加剤（着色料）などが少ない安全なもの：10 人 ⑦コマーシャルで良くやっていて有名なもの：0 人 ⑧消費期限・賞味期限をみて新しいもの：10 人	

出所：アンケート結果より筆者作成。

(3)　地域と企業

表 5 は，「子ども食堂に関する認知度」や「消費行動」に関する質問結果である。「子ども食堂を知っていたか」という質問では，18 人が「はい」と回答し，「いいえ」は 2 人のみであった。子ども食堂が増えていることに対しては，経済的な家庭の貧困，共働きの増加等により，子ども食堂のニーズが高まっているとの意見が多かった。子ども食堂はメディアで取上げられていることや，松戸市にもこども食堂が 15 箇所（消費生活展開催当時）あることから，身近にそして良く周知されていると考えられた。

また，「商品を購入する際の意識」に関する調査結果では，多い順に，値段が安いこと（11 人），添加剤（着色料）などが少ない安全なもの（10 人），消費期限・賞味期限をみて新しいもの（10 人）であった。値段，安全性や新しさを重視する傾向が目立った。環境にやさしい商品（8 人）も選択している人がいたが，消費生活展の出展団体の担当者という視点から見るのであれば，環境保全や生産者に対してより高い意識を持って当然であると，筆者は考えていた。今回のいくつかの出展団体の中には，消費生活と関わりのある食品ロス削減や地域の生物多様性保全等の環境に配慮した取組みを進めているようだが，担当者や個々のレベルになるとその意識の定着や行動までには十

表 6　生活環境

1. あなたは，自分の家で水道水を直接飲むことはありますか？「いいえ」と回答した人は，その理由もお答えください。	
はい：15 人　　いいえ：5 人	
水道水を飲まない理由等：	・ミネラルウォーターを飲む。 ・家で天然水を購入している (おいしい，きれい)。 ・ウォーターサーバーが来るから。 ・水道水は飲むが，浄水器は通している。 ・自宅で炭を使用して浄水して飲む。 ・カルキ臭の問題。
2. 今回のパネルを見て，水道水を飲水として利用したいと思いましたか？	
はい：13 人　　いいえ：4 人　　無回答：3 人	
3. 今回のパネルを見て，クリーンな電力会社の電気に切り替えてみようと思いましたか？	
はい：11 人　　いいえ：5 人　　無回答：4 人 すでにクリーンな電力会社の電気を使用している：0 人	

出所：アンケート結果より筆者作成。

分至っていない傾向があるものと考えられる。

SDGs の「目標 12：つくる責任使う責任」等の視点から，私たちの消費行動のあり方についてあらためて見つめ直してみる必要がある。図 1 にもあるように，目標 12 は日本の中で SDGs の達成度が低いため（55.6 ポイント），市民の消費行動を変えていくための社会教育がより一層求められる。

⑷　生活環境

表 6 は，「水や電気に関する私たちの生活環境」に関する調査結果である。「水道水を直接飲むか」という質問に対しては，「はい」が 15 人，「いいえ」が 5 人であった。「水道水を飲まない理由」として挙げられた意見は，ミネラルウォーターの購入や浄水器等の使用であった。また，「今回の生活環境に関するパネルを見て，水道水を飲水として利用したいと思うか」という質問では，13 人が「はい」と回答した一方で，「いいえ」も 4 人いた。「水道水を飲まない理由」にも挙げられたように，水道水のカルキの臭いに対して抵抗がある等，おいしい水を飲みたいという意識が高いと考えられる。

「太陽光や風力を使用したクリーンなエネルギーを販売している電力会社へ切替えようと思うか」に関する質問では，「はい」が 11 人，「いいえ」は 5 人であり，「すでにクリーンな電力会社の電気を使用している」は 0 人であった。パネルを通じて，クリーンな電力への切替えが簡単にできることを伝えたこと等が，意識の変化につながったと考えられた。

SDGs の「目標 6：安全な水とトイレを世界中に」や「目標 7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の目標達成を進めていくためには，毎日の消費の心がけが重要であり，そのための環境教育や消費者教育がより一層求められる。

⑸　その他

表 7 は，「自分の住んでいる地域の課題」に関する調査結果で，13 人から記載があった。住んでいる場所・地区に違いはあるが，全般的に，緑の減少，水質，ごみ等の環境問題や，少子高齢社会について回答する人が多かった。環境課題での理由としては，身近な自然と人との共生に関する

表 7　その他

最後に，あなたの住んでいる場所では，どのような地域の課題がありますか？あなたがもっとも深刻であると考える課題を一つ取り上げ，その理由を書いて下さい。			
●回答者 1		●回答者 7	
地域（住んでいる場所）：松戸市内　年代：60 代		地域（住んでいる場所）：松戸市小山　年代：60 代	
課題：	緑地の減少（農地，樹林地，空き地）。	課題：	乗り物。
理由：	温暖化，景観の悪化，防災の視点から。	理由：	老化（買物弱者）
●回答者 2		●回答者 8	
地域（住んでいる場所）：松戸市新松戸　年代：10 代		地域（住んでいる場所）：松戸市内　年代：80 代	
課題：	緑地の減少。	課題：	高齢者の住人が多い。
理由：	世界中で緑地増加をかかげているのに，緑地が減り続けているから。	理由：	記載なし。
●回答者 3		●回答者 9	
地域（住んでいる場所）：船橋市　年代：10 代		地域（住んでいる場所）：松戸市小金原　年代：60 代	
課題：	農家数の減少，高齢社会。	課題：	少子高齢。
理由：	農業は大切だが，継承ができていない。	理由：	記載なし。
●回答者 4		●回答者 10	
地域（住んでいる場所）：我孫子市　年代：10 代		地域（住んでいる場所）：松戸市岩瀬　年代：70 代	
課題：	手賀沼が汚い。	課題：	子どもたちの遊ぶ，土のある広場が少ない。
理由：	みんなできれいにしていこうという意識が低い。	理由：	子どもが騒ぐ声が聞こえないから。
●回答者 5		●回答者 11	
地域（住んでいる場所）：松戸市内　年代：40 代		地域（住んでいる場所）：松戸市内　年代：30 代	
課題：	ゴミ。	課題：	子どもの虐待やネグレスト。
理由：	人口が多いため。	理由：	身近にそのような疑いのある子どもがいるから。
●回答者 6		●回答者 12	
地域（住んでいる場所）：松戸市内　年代：50 代		地域（住んでいる場所）：松戸市小金地区　年代：70 代	
課題：	ゴミの分別，省エネ。	課題：	地域住民同士のコミュニケーションが足りない。
理由：	雑誌の仕分けができていない。無駄に，共有スペースの電気を明るくつけすぎている（いつも消して歩いている）。	理由：	自治会・町会の改善が必要。
		●回答者 13	
		地域（住んでいる場所）：松戸市内　年代：50 代	
		課題：	「自分だけ良ければ」をなくす。
		理由：	トラブルの要因となる。

出所：アンケート結果より筆者作成。

意識が低いのが要因の一つとして挙げられたことから，一人ひとりの行動が地域環境の改善につながるということをあらためて問い直してみる必要がある。

また，少子高齢社会の課題に関する理由をみると，「地域住民同士のコミュニケーションの不足」

表 8　第 46 回消費生活展〜くらしフェスタ松戸アンケート

実施日：2019 年 10 月 5 日・6 日　回答者 427 人

どのコーナーに興味を持ちましたか？（該当するものいくつでも）		
No	出展団体	人数
1	松戸市立松戸高等学校生物部・ホームプロジェクト部	126 人
2	千葉県立小金高等学校生物部	143 人
3	松戸市消費者の会	139 人
4	松戸検察審査協会	110 人
5	NPO 法人松戸エコマネー「アウル」の会	93 人
6	まつど地域活躍塾つながりの会	87 人
7	食の安全安心を考える市民の会	110 人
8	生活協同組合コープみらい千葉県本部	101 人
9	NPO 法人すまいの応援団	61 人
10	RKU ファイヤーファイターズ	50 人
11	生活クラブ生活協同組合・松戸プリムラの会	98 人
12	認定 NPO 法人東葛市民後見人の会松戸支部	54 人
13	消費生活モニター	72 人
14	NPO 法人せっけんの街	109 人
15	消費生活センター	69 人
16	公益財団法人　松戸みどり花の基金	28 人
17	京葉ガス株式会社	41 人
18	千葉県西部防災センター	68 人
19	未回答	17 人

出所：第 46 回松戸市消費生活展実行委員会の資料に基づいて筆者作成。

からもあるように，地域社会の支え方やあり方について考えてくことが重要である。

SDGs の「目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう」にもあるように，地域課題解決のためには，市民社会で様々な関係者や年齢層の人たちが連携・協働による取組みをより一層進めていく必要がある。この点を十分に考慮し，「地域をどのように維持・再生させていくべきか」を地域住民の粘り強い検討を重ねて合意形成を図る地域づくりが重要である。

4. 結　論

来場者（市民）に対する SDGs の考え方に対する調査では，SDGs 全体の概念の説明に加えて，松戸市における SDGs の具体的な取組みや，つながりの会のメンバーの活動を取入れることで，ある一定の理解を得ることができたと言える。その意味では，パネルの作成内容や伝え方に関するアプローチは，比較的効果のあるやり方であったと言える。しかしながら，SDGs のパネル展示場には，10 月 5 日，6 日の 2 日間に渡り多くの来場者（市民）が訪れたが，今回の私と SDGs とのつな

がりに関するシートに協力してくれた人は，35 名と多くなかった。これは来場者の意思にもよるが，訪問者全体の SDGs に対する関心はあまり高くなかったとも考えられる。表 8 は，実行委員会で整理した来場者へのアンケート結果の一部である。これによると，「どのコーナーに興味を持ったか（複数回答）」の質問では，つながりの会のブースは 87 人であった。No. 16～18 の 3 つの協賛団体を含めると，つながりの会がテーマとした SDGs への関心度は，ほぼ真ん中に位置していることが分かる。この結果を踏まえ，市民への SDGs の考え方と，地域や海外とのつながりを理解して行動へ移していくためには，さらなる工夫が求められる。例えば，自治会等での積極的な勉強会の開催や，市役所，公民館，学習センター，図書館等における公的な機関を利用した SDGs の学習機会の提供等の取組みが，市民社会で SDGs を促進していくためには必要である。しかも，その場合，SDGs の概念を解説するだけでなく，自分たちの生活環境との関わりや，各個人，組織，地域社会が SDGs を意識して何ができるのか，そして SDGs17 の目標全てのつながりを意識した取組みにより自分たちが地域をいかに良くしていけるのかを，考察していくための課題解決へ向けた参加型の市民学習が不可欠である。

また，各出展団体における担当者の SDGs に対する理解度も，一定の理解を得ることができたと考えられる。しかしながら，担当者個々人では，SDGs の各目標内容の理解不足，SDGs の 17 の目標全体とのつながりを十分に把握していないことや行動が伴っていない等，浸透・定着しているとは言えない。今回の出展団体の各担当者は SDGs の推進を担う重要なキーパーソンであるため，SDGs を促進していくためのリーダーを育成する研修機会の提供も，市全体が一丸となって手厚く進める必要がある。そうすることで，今回の出展団体や担当者は市民社会の SDGs に対する意識，理解，態度や行動を高めるための原動力として機能するであろう。

最後に，今回の研究結果を踏まえ，2030 年に市民社会において SDGs の 17 の目標を達成していく上で取組むための筆者の考える重要な視点を提起して終わりとしたい。それらの視点としては，「①歴史的背景」，「②生命基盤」，「③学習」の 3 つを提示する。「①歴史的背景」に関しては，各地域の開発および市民社会の形成がこれまでどのような経緯で行われてきたのかという歴史を十分に認識することや，過去の地域の伝統文化を尊重しながら SDGs の課題解決へ取組むことが重要である。また，「②生命基盤」については，我々人類の社会・経済の課題に焦点を当てるだけでなく，私たちが地球上で生きていくために不可欠な生態系や生物多様性の保全が生命の基盤として存在することをあらためて理解することが大切である。地球上に豊かな自然環境が存在してはじめて，私たちの暮らしに安全・安心な水，空気，土壌や新鮮な食べ物を持続的に提供してくれる。私たちの生命基盤である自然環境が根底にあることを十分に認識した上で，SDGs が掲げる様々な課題に対処していくことが求められる。さらに，「③学習」については，本研究でも強調してきた。SDGs の達成すべき課題を理解して各目標達成へ向けて取組むことのできる人材の養成，そして SDGs を実装するリーダーが市民の意識の向上，態度の変容や実際の行動へつながっていくことから，地域社会での教育が極めて重要であると考える。

謝辞

本論文の執筆に当っては，まつど地域活躍塾つながりの会のメンバーと，第 46 回松戸市消費生活展の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

《注》

（1） 2015 年の世界銀行の貧困に関するデータ。https：//www.worldbank.org/ja/news/feature/2014/01/08/open-data-poverty（2019 年 11 月 25 日アクセス）。

（2） 関東経済産業局・一般財団法人日本立地センター「中小企業の SDGs 認知度・実態等調査（WEB アンケート調査）」2018 年 12 月。https：//www.kanto.meti.go.jp/seisaku/seichou/sdgs_ninchido_chosa.html（2019 年 11 月 25 日時点）。

（3） 朝日新聞社が東京・神奈川県に暮らす 3,000 人を対象として実施した調査結果。https：//miraimedia.asahi.com/sdgs_

survey04/（2019 年 11 月 25 日アクセス）。

（4） 第 46 回松戸市消費生活展の展示会場での来場者に対する説明は，2019 年 10 月 5 日，6 日の 2 日間に渡って行われた。2019 年 10 月 4 日は，午後から一般社団法人エシカル協会代表理事の末吉里花氏により，「合言葉は SDGs! みんなで考えよう地球の未来」をテーマに，1 時間 30 分程の講演が行われた。

（5） まつど地域活躍塾つながりの会は，2017 年に松戸市市民部市民自治課が開設した「まつど地域活躍塾」の修了生で構成されている。2019 年（令和元年）の現時点では第 3 期活躍塾が開講中である。執筆者の佐藤は，まつど地域活躍塾第 2 期修了生（2018 年度）で，つながりの会に所属し，「第 46 回松戸市消費生活展～くらしフェスタ松戸～」の SDGs パネルの内容作りや当日の普及啓発活動を行った。

（6） つながりの会は，第 46 回松戸市消費生活展実行委員会での実行委員会団体として選定された。実行委員会の規則により，実行委員会団体に選定された場合のパネル枚数は，A1 サイズのパネル 4 枚とその半サイズ 2 枚，計 6 枚まで展示が可能となった。

（7） SDGs のパネルは，筆者を含むつながり会のメンバー 4 名が主となって作成したが，消費生活展での普及啓発では，つながりの会の他のメンバーもサポートしてくれることになっていた。そのため，パネルを説明できる資料を予め作成・印刷し，つながりの会のメンバー全員が SDGs のパネルを説明できるようにした。

（8） 本表は下記のウエブサイト，並びに松戸市役所第 46 回松戸市消費生活展を紹介する冊子により筆者が作成した。

松戸市役所第 46 回松戸市消費生活展～くらしフェスタ松戸～

https：//www.city.matsudo.chiba.jp/smph/kurashi/syouhiseikatu/oshirase/syohiseikatsuten.html（2019 年 11 月 25 日アクセス）。

（9） ①～⑧の回答項目は，特定非営利活動法人地球の木が作成した「マジカルバナナ（2010 年 7 月 31 日）」の 3 頁に掲載されている買い物ランキングシートの回答項目を参考に作成した。

参考文献

「SDGs を活用した推定市場規模の動向と今後の課題に関する考察―企業による弱者を対象とした社会開発関連ビジネスの推進を目指して―」佐藤秀樹，一般社団法人日本経営士会「第 52 回経営士全国研究会議研究論文集」，pp. 57-65（2018）.

日本経済新聞 朝刊 28 面「SDGs/CSR Frontier 日経 SDGs 経営大賞」2019 年 12 月 26 日.